

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100576		
法人名	医療法人 アイリス朝陽会		
事業所名	グループホームアイリス		
所在地	宮崎県宮崎市吉村町大町甲1919-6		
自己評価作成日	平成27年8月24日	評価結果市町村受理日	平成27年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成27年9月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の一階が診療所である。医師・看護師、介護職員の連携ができていて、利用者様の病状に変化があった時でも迅速な対応ができる。ご家族の方からも信頼されている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設の一階は医院となっており、二階をホームとして運営している。外来の方が歌や音楽に誘われて見学をしたり、地域の方が知人の入院を聞き来訪するなど、日常的に地域との交流が図られている。運営推進会議でも活発な意見交換が行われ、具体的な避難方法も消防署より指導されている。一階の看護師の協力もあり、看取りの経験もある。協力医師も頻りに往診し、利用者、家族が安心できるホームである。職員間の関係も良く、明るい雰囲気を利用者にも伝わり、穏やかな生活が送れるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼・申し送り・勉強会で理念の大切さを話し合い、職員全員で共有し実践している。	毎月の勉強会で、安心、安全を目標に地域に開かれた、信頼できる施設という理念の実践に向けて、話し合いや見直しを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自施設で行うイベントには、地域の皆様に声を掛け、参加して頂いている。また、地域のイベントにも参加している。	ホームで行う毎月のイベントに、地域の方が参加している。日常的にも来訪者が多く、地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時、自治会長、公民館館長、老人会会長の方々に、地域包括支援センターの方の協力を得て、認知症の症状・対応について理解していただけるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議の際、火災時、地震水害時の避難場所の案内図を頂いたり、保存食や水の確保の必要性のご意見を頂き、運営に大変役立っている。	運営推進会議は、2か月ごとに開催している。公民館長や区長から避難場所等のアドバイスがあるなど、活発な意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護職処遇改善加算の件で担当者に相談、指示を仰ぎながら、計画書を届け出、五月より算定可能となった。スプリンクラー設置についても適切な対応を頂いた事で設置することができた。	行政には直接出向き、職員と顔見知りになっている。介護度の変更などの相談を行い、日常的に協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について資料を作成。勉強会にて全職員へ配布し、理解する事で拘束しない介護に取り組んでいる。	ホーム内の年間研修計画に盛り込まれ、資料を全職員に配布し、身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、職員が外部研修に参加する機会が少なく、知識を増やす機会が少ない。	職員がそれぞれ外部研修等にも参加し、正しく、より深く知識を身につけ、実践に向けて取り組むことを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月一回勉強会を行っており、毎回テーマに沿った資料を作成している。体罰だけが虐待ではなく、言葉も虐待になることがあること。7月と8月に利用者様への介護の取り組みについてアンケートを実施。職員の意識向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様やご家族が望まれば主治医の同意書もらい、関係者と連絡を取り、活用する支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書は、明瞭且つ丁寧に説明し、お尋ねになりたい事には細部にわたり対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方が面会に来られた時だけではなく、電話でも相談は受けている。先日も車イスの件でなかなか納得されていなかったが、十分な説明ができた事で理解して頂けた。	家族会をイベントごとに実施している。また、家族の来訪時には意見を言えるよう関係作りも行い、記録にも残し、家族の意見が反映されるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関して、職員の意見や提案はその都度時間を作り聴いている。出勤時間の変更も、職員の要望を取り入れたものである。	毎月の職員会議には、施設長も必ず参加している。職員は気付いた点をメモ書きし、職員会議時に話し合っている。出勤時間の変更を行うなど、職員の意見が反映されるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況は十分把握している。給与水準、労働時間に関しては労務士管理の下、職場環境・条件に努めている。5月より介護職処遇改善加算の算定もできるようになった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	7月認知症介護実践者研修に参加した。今までの介護を振り返り、目からうろこの状態である。職員が進んで研修を受けたがらないが、知識を身につけることは施設と利用者の方の最重要事項として支援していく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加したことで他施設の方との交流をする事が出来た。今後も連携を取り合い、サービス向上に取り組んでいく。訪問活動も更に活発化し、地域全体の交流を強化する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の今までの生活状況やどういふ方だったのか、嗜好や性格などの聞き取り、これからどのように暮らして生きたいか、どんな事をして欲しいか、相談ファイルを設定して要望に応えられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方が当施設にどこまで望まれているか、持病の悪化、怪我の時、看取りまで希望される場合など、気持ちを受け止められるよう信頼関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自立支援の活用、理・美容の出張サービス、病気の際の診療情報提供が迅速であることなど、本人・家族の方の要望に対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	歌を歌ったり、ゲームをした後のお茶の時間に楽しく会話をし、コミュニケーションをとっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日面会に来られるご家族は勿論のこと、遠方にいらっしゃるご家族の方とも連絡は密にし、近況報告を行い、家族の方の支援も受けられる関係である。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様が、ご家族、友人、今まで住んでいた地域の事など、また、新しい情報などを記録して、職員が共有し、会話が広がるよう努めている。ご家族の協力を得、外出して頂いている。	医院の2階にホームが造られていることもあり、入院されたと聞いて知人が来訪することもある。日常的になじみの方が来訪し、墓参りや理・美容の利用などは、家族の協力も得て支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様方の性格などを理解し、食事の時、お茶の時間、ゲームをする時など楽しくできるよう、気配りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所者、ご家族から連絡があった場合、対応できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護者本位ではなく、利用者様本位の介護ができるよう、申し送りや勉強会で情報を共有し、検討している。	日々の記録に利用者の言動も記録し、その背景をくみ取るようにしている。家族からも生活歴を聞き取り、日々の行動や会話から思いや意向の把握を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様や家族の方からの生活履歴を知ることが介護をするうえで大変重要であり、本人様の気持ちに沿った支援ができる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活習慣で洗濯物をたたんだり、テーブル拭きを手伝ってもらえる利用者様もいる。歌を歌うのが好きな利用者様もいらっしゃる。気持ちが落ち込んだりされるときもあるが、職員は現状を把握することに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の思いや希望、家族の方の要望、職員の気づきやアイデアなど、ケア・マネージャーが十分反映させ、現状に沿った介護計画を作成している。	モニタリングを毎月行い、3か月ごとに見直しを行っている。担当者会議を行い、家族からの意見をくみ取り、職員の情報の共有もなされているが、介護計画に日々の記録が反映されるまでには至っていない。	日々の記録を工夫し、職員間で共有し、介護計画に反映され、現状に即した介護計画となるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化を記録し、申し送りで情報を共有している。勉強会ではより良い介護を行うため、意見を出し合い、実践できるよう心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科、理・美容の出張サービス。家族の要望によっては最低必要品(おむつなど)の買い物の支援はしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敬老会、クリスマス会等のイベントを行う時、地域包括支援センター、老人会長、区長、公民館長や近所の方の参加をいただき、ギターやハーモニカの演奏などをして頂いている。季節によって花見にも行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一階が診療所であり、主治医による継続的な医療を受けられる。他科受診に於いては、診療情報提供書により迅速に受診する事ができる。	家族の希望するかかりつけ医の受診となっている。協力医は1階で診療しており、週2回の訪問、随時往診も行っている。1階の看護師の協力も得ており、適切な医療を受けられる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一階の診療所の看護師に、毎朝申し送りをしている。日誌にも目を通してもらっている。緊急時の対応も迅速である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の適切な判断による入院できる病院の連携体制は整っている。他医療機関との情報交換もできる関係である。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、契約書にて確認している。重度化した場合、入院を希望されるご家族、看取りまでを望まれるご家族にも対応できる施設である。	契約書に看取りに関する方針を示しており、入所時に説明も行っている。重度化した場合には随時話し合いを行い、医師、看護スタッフとの体制作りも築かれ、支援がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一階の診療所に緊急連絡。夜間でも主治医に連絡が取れる体制になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練、避難訓練は、年二回実施。赤木防災の方に来ていただき、避難の誘導方法や消火器の使い方も教わり実際に行った。防火研修会にも参加している。	年2回、防災、火災の訓練を行っている。夜間想定訓練も実施し、消防署より具体的な避難経路、方法のアドバイスを受けている。近隣住民との協力関係も築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	女性の利用者様の入浴介助とトイレ介助は女性のスタッフが、男性の利用者様の時は男性の職員でも対応している。優しい言葉かけや対応ができるよう努めている。	プライバシーの研修会を年間研修計画に盛り込んでいる。女性には女性、男性には男性職員が対応するなど、一人ひとりを尊重した対応に心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者本位ではなく、利用者本位の介護をしなければいけない。コンタクト・ケアの目的に沿った支援ができるよう努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今はお風呂に入りたくない、今はご飯を食べたくない、時としてこのような場合があるが、以前に比べると職員の対応にゆとりがあり、他の事でも希望に沿った支援ができています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の方の協力の下、衣類等は準備できている。洗濯は職員が心を込めてしており、清潔な服で身だしなみは整えられている。散髪も二ヶ月に一回来てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みは把握できている。魚が苦手だったり、肉が食べられない利用者様には、好みの食事を提供している。利用者様と職員が、和やかな感じで食事の後片づけをしている。	一人ひとりの好みを把握し、食事量のチェックも行っている。利用者の機能、状態に合わせた食事形態や補助具を使用し、食事を楽しめる支援を行っている。台拭きなど、利用者の能力に応じ、準備や片づけを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量の把握をし、記録している。食べる量が減ったり、水分摂取が少ない時は、主治医に相談し、好きな飲み物(ジュースなど)を提供したり、必要によってはエンシュア・リキッドの指示を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを介助し行っている。本人様が自分でできる方でも、夕食後はチェックし支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用。排泄パターンを把握し、トイレやポータブルトイレでの排泄が自立できるよう支援している。	排せつチェック表を利用し、声掛け・誘導をしている。重度の利用者以外は、日中トイレにて排せつしている。失禁が少なくなった利用者もあり、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトの提供。運動のできる利用者様には軽い体操や散歩などの支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	二階の浴槽は狭い為、一階の風呂を利用。少し遠いが、散歩がてら介助しながら到着。明るい浴槽で入浴を楽しめるよう支援している。	入浴時間は決まっているが、希望により時間変更は臨機応変に対応している。1階、2階の風呂を希望により使い分け、入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝をする利用者様もいらっしゃるが、時間はまちまちである。就寝時間は口腔ケアのあとは自由である。安眠できるよう気を配り支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より服用する利用者様の名前・日付・朝・昼夕の記入された薬包が届くので、誤飲はない。薬剤情報も添付されているので、職員全員、情報の共有はできている。主治医の指示通り服薬できるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケで歌ったり、ゲームを楽しんだりする。洗濯ものをたたんでもらったり、テーブル拭きをお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節によって本人様の希望があれば近辺の散歩に出かけたり、車イスの介助をしている。家族の協力を得て、花見・ドライブに出かけられるよう支援している。	日中天気の良い日は近隣を散歩している。家族の協力もあり、買い物やドライブなども行っている。遠方へ花見や菖蒲園などのドライブにも出掛け、日常的な外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者二名の方が現金を所持。一人の方は、本人様と家族の方のたつての希望により、職員が買い物代行をしている。買い物の明細、領収書は家族に報告し、管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を受け取ったり、投かんする支援は確立している。利用者様とご家族の希望により、自室に電話を設置されている方が一名あり。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビングに季節の花を飾ったり、利用者様の作品を展示し、気持ちが和む工夫をしている。浴室やトイレの掃除も行き届いており、気持ちよく過ごせるよう支援している。	共用空間には職員が描いた自画像や利用者の作品を展示している。廊下等にも季節の花を飾り、明るい雰囲気があったよう空間となるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに仕切りがある為、個々の居場所づくりに活用している。気の合った利用者様同士が増えるような支援もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた調度品など、家族の方の協力を得て持ってきていただき、居心地良く過ごせるよう配慮している。	居室には家族の写真が飾られ、テレビやたんすの持ち込みもある。電話を通して居室もあり、それぞれの利用者が居心地よく過ごせる工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の入り口に表札をつけ、部屋を間違えないような工夫をしている。		